

常 備 消 防 費

政 策 総 務 課

(1) 乙訓消防組合

乙訓消防組合に対し、分担金を負担した。

非 常 備 消 防 費

政 策 総 務 課

(1) 消防団は郷土愛護の精神に基づき、あらゆる災害に対処するため、団長以下一致団結し、防火防災活動を行った。

事 業 名	実施年月日	参加者数	場 所
消防団ポンプ車操法訓練	H26.5.11～8.2	延べ434人	大山崎消防署駐車場及び大山崎小学校グラウンド
初級団員教養訓練	H26.5.19	39 人	大山崎消防署駐車場
大山崎町水防訓練	H26.6.1	37 人	桂川右岸大山崎水防倉庫前
ポンプ車操法訓練町長・議長激励	H26.7.6	36 人	大山崎小学校グラウンド
乙訓支部消防操法練成会	H26.7.26	37 人	大山崎小学校グラウンド
第23回京都府消防操法大会	H26.8.3	35 人	丹波自然運動公園
大雨洪水警報発令に伴う警戒	H26. 8.10	10 人	小畑川周辺
おおやまざき産業まつり 消防団コーナー	H26.11.2	11 人	大山崎消防署駐車場
秋の火災予防運動に伴う広報パトロール	H26.11.9～14 6日間	延べ42人	大山崎町管内
年末特別警戒	H25.12.25～31	164 人	大山崎町管内(各分団詰所)
大山崎町消防出初式	H26.1.12	48 人	大山崎町体育館
大山崎町防災避難訓練	H27.1.18	40 人	大山崎中学校、下植野地区及び円明寺地区の一部
文化財防火運動に伴う特別警防訓練	H27.1.25	28 人	宝積寺
春の火災予防運動に伴う広報パトロール	H27.3.1～7 6日間	延べ27人	大山崎町管内
乙訓二市一町総合消防訓練	H27.3.1	10 人	向日市民体育館

(2) 消防団は火災予防にも積極的に取り組むとともに、府立消防学校に団員を派遣し、各種の教育を実施した。
また、研修のため管外へも団員を派遣し、情報収集や見聞を広め、団員の資質向上に努めた。

○京都府立消防学校派遣研修

消防団員専科教育警防科	1日	3人	京都府立消防学校
消防団員幹部教育指揮幹部科分団指揮課程	1日	3人	京都府立消防学校
○団幹部教育研修	1日	32人	京都市市民防災センター
○全国消防操法大会視察研修	2日	12人	東京ビックサイト
○京都府消防協会乙訓支部管外視察研修	2日	3人	和歌山県
○全国消防団員意見発表会	2日	2人	都市センターホテル

(3) その他

消防団は、分団ごとに毎月自主訓練を行っているほか、消防車両を常時出動可能な状態にしておくための機関点検等を行うなど、万一の災害に備えている。

消 防 施 設 費 政 策 総 務 課

(1) 消防団詰所(第2分団)設計業務委託	2,736,720 円
(2) 防火水槽解体撤去工事	2,089,800 円
(3) 水道事業特別会計負担金	3,420,000 円
消火栓等維持費	公設水利の維持管理費用
	消火栓 231箇所
	防火水そう 54箇所
	} 285箇所×1,000円×12ヶ月

水 防 費 政 策 総 務 課

(1) 水防出動に備え、水防活動に必要な資器材を購入した。	
水防活動用資材(土のう袋、コンクリートパネル他)	71,712 円
(2) 桂川・小畑川水防事務組合	
京都市・長岡京市・大山崎町で構成する水防事務組合の負担金	280,000 円
水防事務組合水防訓練	
訓練日:H26.5.11	
場 所:淀川右岸淀大橋下流河川敷	

〈資料1〉 火災概要(過去3年間)

区分		年別	平成24年	平成25年	平成26年	昨年との比較増(減▲)
火災件数	計		7	5	4	▲1
	建物		4	2	2	0
	車両		2	1	1	0
	林野		0	0	1	1
	その他		1	2	0	▲2
建物焼損床面積 (㎡)			160	6	0	▲6
建物焼損表面積 (㎡)			16	0	1	1
林野焼損面積 (a)			0	0	2	2
焼損棟数	全焼		1	0	0	0
	半焼		0	0	0	0
	部分焼		2	1	0	▲1
	ぼや		2	1	2	1
り災人員			3	2	4	2
り災世帯	全損		0	0	0	0
	半損		0	0	0	0
	小損		2	1	1	0

※大山崎町管内分

(乙訓消防組合統計より)

区分		年別		平成24年	平成25年	平成26年	昨年との比較増(減▲)
		平成24年	平成25年				
死傷者	死者			0	0	0	0
	負傷者			1	0	0	0
損害額(千円)				219,676	91,000	39	▲90,961
主な火災原因	たばこ			1	1	0	▲1
	こんろ			0	1	0	▲1
	火入れ			0	0	0	0
	たき火			0	0	1	1
	火あそび			0	0	1	1
	こたつ			0	0	0	0
	電気機器			0	0	0	0
	配線器具			0	0	0	0
	放火・放火の疑い			1	0	1	1
	その他			5	3	1	▲2
	不明			0	0	0	0
	計			7	5	4	▲1

※大山崎町管内分

(乙訓消防組合統計より)

〈資料2〉 救急活動概要(過去3年間)

区分		年別		平成26年	昨年との比較増(減▲)
		平成24年	平成25年		
出 動 件 数		1,069	988	1,044	56
取 扱 件 数		1,003	926	972	46
事 故 別	交 通 事 故	152	125	133	8
	急 病	643	579	605	26
	一 般	161	169	176	7
	そ の 他	113	115	130	15
救 護 人 員		1,025	937	984	47

事故別の出動状況を見ると急病が605件と最も多く、全体の約 60%を占めた。
 大山崎消防署が出動した件数で、町外への出動を含む。

(乙訓消防組合統計より)

〈資料3〉 消防団の出動状況(平成26年度中)

区分		種別	計	災 害 出 動			演 習 ・ 訓 練	広 報 活 動	研 修 ・ 会 議	機 関 点 検	特 別 警 戒	そ の 他	
				火 災	う ち 林 野	捜 索 活 動							風 水 害 等 の 災 害
消 防 団	出 動 回 数	137	0	0	0	1	36	12	28	36	7	17	
	出 動 延 人 員	1,558	0	0	0	10	766	73	119	252	190	148	

消防団員は、火災、その他の災害による被害を最小限にとどめるため、専門知識の習得、技術の練磨を重ねた。

災害対策費

政策総務課

1. 災害警戒本部設置状況

各種気象警報等の発表に伴い、災害警戒本部を計9回設置した。内1回は災害発生の危険性が高まったため、災害対策本部へ移行した。

○大雨、洪水警報発表によるもの:6月12日、8月9日(後、対策本部へ移行)、8月16日、8月24日、9月6日、10月5日、10月13日

○大雪警報発表によるもの:1月1日、1月2日

2. 災害対策本部設置状況

災害発生の危険性が高まったため、災害対策本部を設置した。

設置日	事象	備考
8月9日(土)	午前10時15分 大雨警報発表 災害警戒本部設置 午後01時35分 土砂災害警戒情報発表 午後04時30分 災害対策本部移行 午後07時45分 土砂災害警戒情報解除 午後09時20分 暴風、洪水警報発表(大雨継続)	午後04時30分 天王山山麓の1,200世帯 2,900人を対象に避難準備情報発表 ふるさとセンターに12世帯21名が避難
8月10日(日)	午前10時頃 台風11号が兵庫県上陸 午前10時40分 土砂災害警戒情報再発表 午後02時25分 桂川下流はん濫危険情報 午後04時24分 暴風警報解除 午後05時35分 土砂災害警戒情報解除 災害警戒本部移行 午後07時26分 大雨警報解除 午後08時42分 洪水警報解除 災害警戒本部閉鎖	午後05時35分 避難準備情報解除

- ・48時間雨量288mm(松田橋 8月8日19時~10日19時)
- ・河川水位 桂川最高水位13.39m(8月10日17時30分大山崎排水ポンプ場裏)
- ・被害 桂川河川敷公園冠水 道路冠水数ヶ所 倒木1件

3. 防災パトロール

大山崎町地域防災計画に基づき、梅雨期とそれに続く台風襲来期を迎えるにあたり、防災関係機関の協力を得て、災害時に危険が予想される箇所の総点検を実施し、防災上必要な対策を検討し、万全を期すことを目的に実施した。

○実施日:平成26年6月2日(月) ○参加者数:28名

○パトロール箇所:桂川河川敷【大山崎排水ポンプ場裏、築堤現場(淀水垂)、河道掘削現場(淀樋爪)】

4. 自主防災組織の結成及び支援

- 新たに2団体が自主防災組織を結成した。
- 自主防災組織の活動を支援するため、自主防災活動補助金を支出した。
 - ・防災倉庫設置個所: 円明寺フラワーハイツ
- 災害発生時に地域住民が初動活動が行えるよう、新たに1箇所に防災資機材倉庫を設置(平成25年度までに24か所設置済み)した。
 - ・自主防災活動補助金: 155,667円(計8団体)

5. 防災訓練の実施

町職員の災害対応力を向上させ、関係機関との連携を強化するとともに、住民の自主防災活動を促進することにより、地域の防災力を高めることを目的として、総合防災訓練を実施した。

- 日 時 : 平成27年1月18日(日) ○場所: 大山崎中学校 ○想定状況: 大規模地震及びそれに伴う火災発生
- 参加機関: 町、大山崎消防署、大山崎町消防団、対象区域自治会・町内会・自主防災組織(住民参加217名)
- 内 容 : 災害対策本部の運営訓練、地域住民の避難行動訓練、地域住民参加型の避難所運営訓練(福祉コーナー等の設置、仮設トイレ等の設置、炊き出し)、消防署・消防団による災害救助訓練、防災展示など

6. 防災資機材等の整備

移動系防災無線機、仮設トイレ、備蓄用の飲料水等を調達、各避難所等に配備した。また、避難所内における避難者自身の情報収集に役立てるため、大山崎小学校にwifi環境を整備した。

- 調達(整備)資機材・物資: 移動系防災無線機(増設)、災害時用簡易トイレ、wifi環境整備(大山崎小)、備蓄用食料、飲料水、非常用毛布

7. 防災啓発の実施

- 出前講座: 防災に関する出前講座を計9回実施し、延べ290の方が受講した。
- 広 報 : 4月号から12回にわたり「広報おおやまぎ」に防災記事を掲載し、住民の防災意識の高揚を図った。
- 展 示 : 平成27年1月13日(火)～23日(金)、役場町民ロビーにおいて「減災」啓発展示を実施した。

8. 防災会議の開催及び地域防災計画の見直し

防災関係法令の改正や、近年の災害対策活動の実態を反映するべく、大山崎町防災会議を開催し、大山崎町地域防災計画の大幅修正を実施した。修正後の計画書については製本を行い、関係機関に配布した。

- 防災会議開催日: 平成27年2月16日 ○参加委員数: 26名

